

## 茨城県立こども病院を受診された方へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名	神経芽腫症例における MLPA 法、PCR 法による直接塩基配列解析法、次世代シーケンサーを用いたゲノム解析
当院の研究責任者	加藤啓輔
他研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	神経芽腫は細胞遺伝学的に多様であり、染色体や遺伝子の変化により性質が大きく変わります。MYCN 遺伝子の増幅を示す例や 11 番染色体長腕の欠失を示す例は極めて予後が悪く、MYCN 遺伝子の増幅や 11 番染色体の欠失の有無は強力な予後因子であるが保険診療の範囲内では検索できません。また日本小児がん研究グループの観察研究の中央診断でも 11 番染色体の欠失の有無については結果は返却されません。ALK 遺伝子の変異がある例も予後が悪いことがわかっています。ALK 遺伝子の変異がある神経芽腫症例は ALK 遺伝子産物阻害剤の治験に参加できると考えられますが、保険診療内では ALK 遺伝子変異を検索することは不可能です。今回の研究は染色体や遺伝子の解析を行い神経芽腫の病態を明らかにすることです。現在治療中の患者さんに関しては予後を推定するのに有益な染色体や遺伝子の変化を明らかにして治療法の選択の参考にすることも目的にします。
該当期間・対象者	1995 年以降発症した神経芽腫、神経節芽腫、神経節腫の患者さんを対象にします。
研究の方法	当院に保存している初診時腫瘍生検体から DNA を抽出します。また経過中に採取した骨髄検体から DNA を抽出して正常対照とします。MLPA 法、PCR 法を用いて直接塩基配列解析法、次世代シーケンサーを用いたゲノム解析を用いて腫瘍細胞に生じている染色体の変化、遺伝子の変化を調べます。
他機関への情報提供	研究結果は学会、論文等で報告します。個人を特定する情報は報告にはついていません。
個人情報の取り扱い	個人の情報は公開しません。

利益相反	ありません。
問い合わせ先	茨城県立こども病院小児血液腫瘍科 加藤啓輔 TEL 029-254-1151 FAX 029-254-1151 Mail k-kato@ibaraki-kodomo.com
備考	